

2006年8月2日



2007年3月期第1四半期財務・業績の概況

東レ株式会社
代表取締役社長 榊原定征

- ・2007年3月期第1四半期業績の概要 (P3)
- ・事業セグメント別売上高・営業利益 (P4-11)
- ・営業利益増減要因分析 (P12)
- ・2007年3月期中間期業績見通し (P13)
- ・事業セグメント別売上高・営業利益中間期見通し (P14-15)
- ・事業環境変動要因に対する当社対応 (P16)
- ・原料価格の見通し (P17)
- ・最近のトピックス (P18)
- ＜参考資料＞ (P19-23)

2007年3月期第1四半期業績の概要

単位：億円

	06年3月期 第1四半期	07年3月期 第1四半期	増減
売上高	3,241	3,581	+339 (+10.5%)
売上原価	2,569	2,860	+291 (+11.3%)
売上総利益	672	720	+48 (+7.2%)
(売上高総利益率)	20.7%	20.1%	-0.6 ポイント
販売費及び 一般管理費	513	535	+22 (+4.3%)
(売上高販管費比率)	15.8%	14.9%	-0.9 ポイント
営業利益	159	186	+26 (+16.5%)
(売上高営業利益率)	4.9%	5.2%	+0.3 ポイント
営業外収支	▲ 9	▲ 0	+9 (-)
経常利益	150	185	+35 (+23.5%)
特別損益	▲ 21	10	+31 (-)
税前利益	129	195	+66 (+51.0%)
純利益	64	117	+53 (+83.0%)

(注)3月期決算会社は4～6月の業績、12月期決算会社は1～3月の業績を連結

	06年3月末	06年6月末	増減
総資産	15,374	15,219	-155
負債合計	9,467	9,327	-140
少数株主持分	537	-	-
資本合計	5,370	-	-
純資産合計	-	5,892	-
有利子負債残高	4,844	4,965	+121

上期営業利益見通しに対する第1四半期進捗率

	06年3月期 第1四半期	07年3月期 第1四半期
第1四半期営業利益	159	186
上期営業利益 06年3月期は実績 07年3月期は見通し	388	430
第1四半期進捗率	41.1%	43.2%

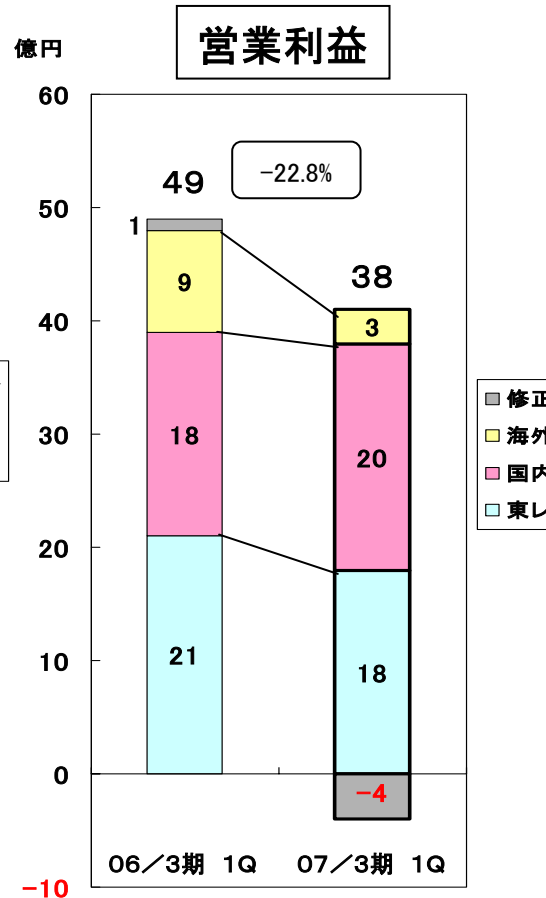
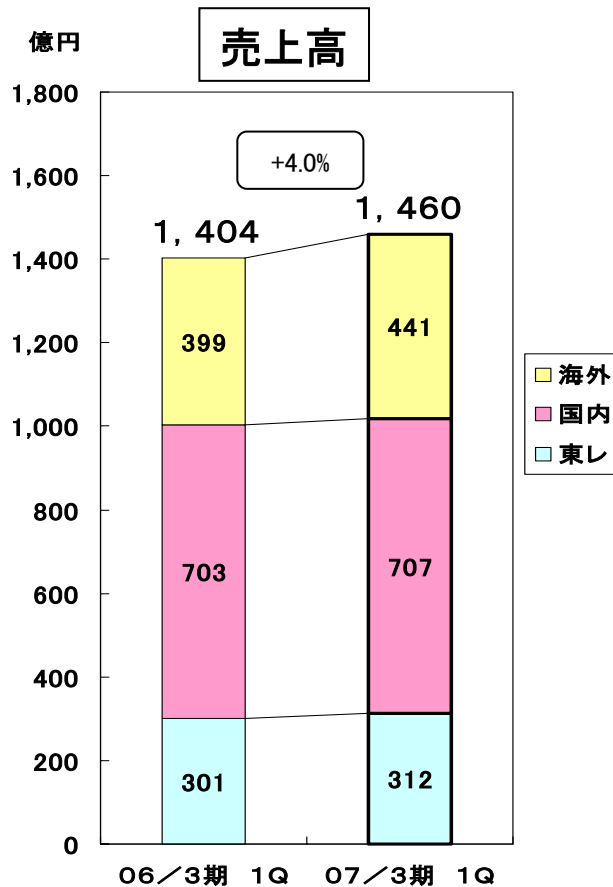
注)07年3月期上期見通しは、
06年5月時点の見通し

事業セグメント別売上高・営業利益

単位：億円

	売上高			営業利益		
	06年3月期 第1四半期	07年3月期 第1四半期	増減	06年3月期 第1四半期	07年3月期 第1四半期	増減
繊維	1,404	1,460	+56 (+4.0%)	49	38	-11 (-22.8%)
プラスチック・ケミカル	780	908	+128 (+16.4%)	39	36	-4 (-9.1%)
情報通信材料・機器	517	646	+129 (+25.0%)	50	68	+18 (+34.9%)
炭素繊維複合材料	119	146	+26 (+22.1%)	26	44	+18 (+67.1%)
環境・エンジニアリング	247	273	+26 (+10.4%)	▲ 9	▲ 6	+3 (-)
ライセンスその他	174	149	-25 (-14.4%)	3	6	+3 (+107.0%)
(内医薬・医療材)	93	92	-1 (-1.2%)	▲ 1	▲ 0	+1 (-)
計	3,241	3,581	+339 (+10.5%)	159	185	+26 (+16.5%)
消去又は全社				1	1	+0
連結	3,241	3,581	+339 (+10.5%)	159	186	+26 (+16.5%)

事業セグメント別業績(繊維)



特記事項

東レ

高機能繊維を中心に産業用途は堅調に推移するも、衣料用途は店頭での荷動きが鈍く、厳しい状況で推移。また、原燃料価格高騰の影響を受け、増収減益。

国内子会社

商事子会社が拡販に努め、増収増益。

海外子会社

中国事業の改善が進むも、インドネシア事業が燃料価格高騰の影響を強く受ける等により、増収減益。

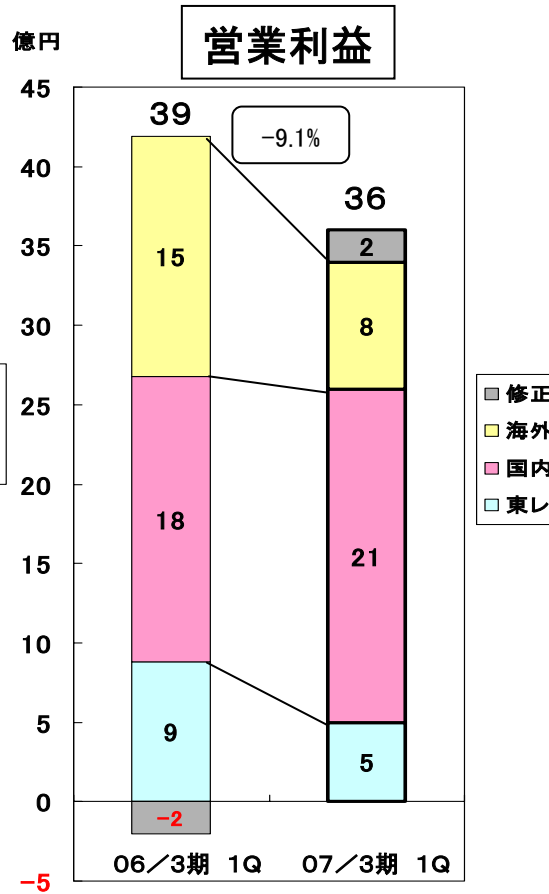
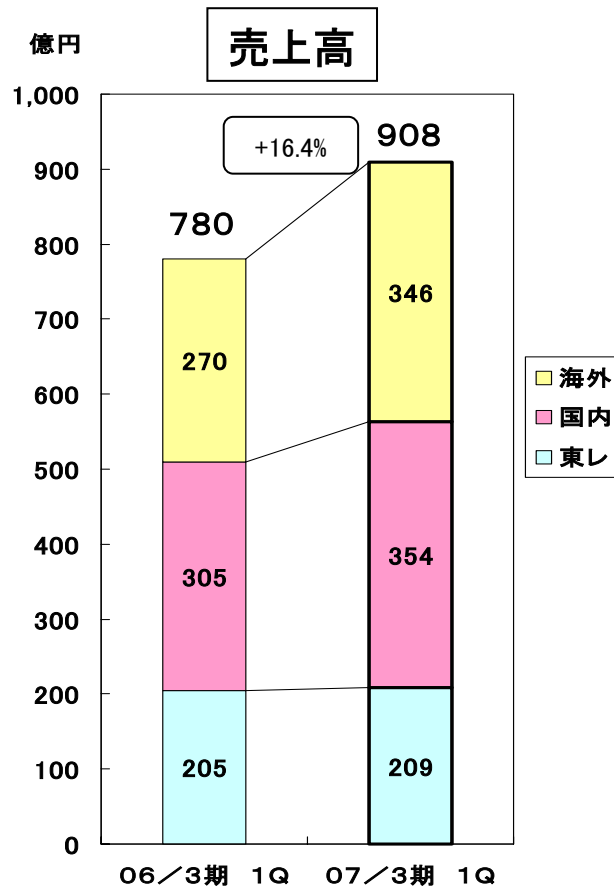
<主要関係会社>

国内：東レインターナショナル、一村産業、蝶理 他

アジア：PENFABRIC(マレーシア)、LUCKYTEX(タイ)、ITS(インドネシア)、TFNL(中国) 他

欧米：ALCANTARA(イタリア) 他

事業セグメント別業績(プラスチック・ケミカル)



特記事項

東レ

樹脂は自動車用途を中心に、フィルムは工業材料用途を中心に拡販し、増収。原燃料価格高騰の影響等もあり、減益。

国内子会社

樹脂・フィルム・ケミカル・商事各社とも堅調に推移し、増収増益。

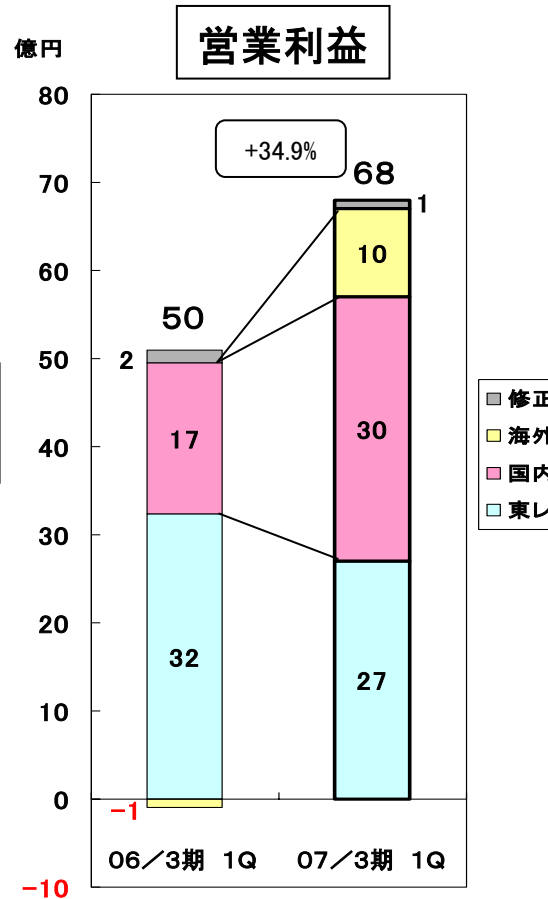
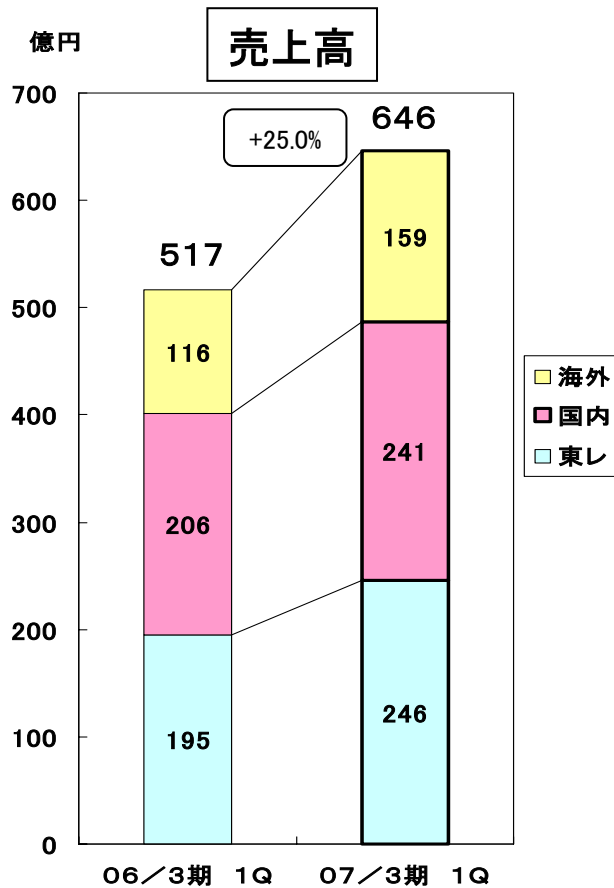
海外子会社

中国樹脂子会社や米国フィルム子会社が拡販に努めたこと等により、増収。韓国フィルム子会社が情報通信材料・機器用途へのシフトを戦略的に推進したことと欧州フィルム子会社不振等により、減益。

<主要関係会社>

国内：東レフィルム加工、東レ・ファインケミカル、曾田香料、蝶理 他
海外：TPA(アメリカ)、TPM(マレーシア)、TPEu(フランス)、TSI(韓国) 他

事業セグメント別業績(情報通信材料・機器)



特記事項

東レ

IT関連樹脂・フィルム、PDP関連材料等の拡販を進め、増収。PETフィルムの原燃料価格高騰の影響、及びカラーフィルターの競争激化による価格低下の影響等もあり、減益。

国内子会社

FPD関連フィルム、COF用2層フィルムの拡販、FPD・半導体関連装置の拡販等により、増収増益。

海外子会社

韓国子会社がFPD関連フィルムを拡販、前年同期にユーザーの在庫調整の影響を受けた韓国回路関連子会社も堅調に推移し増収増益。

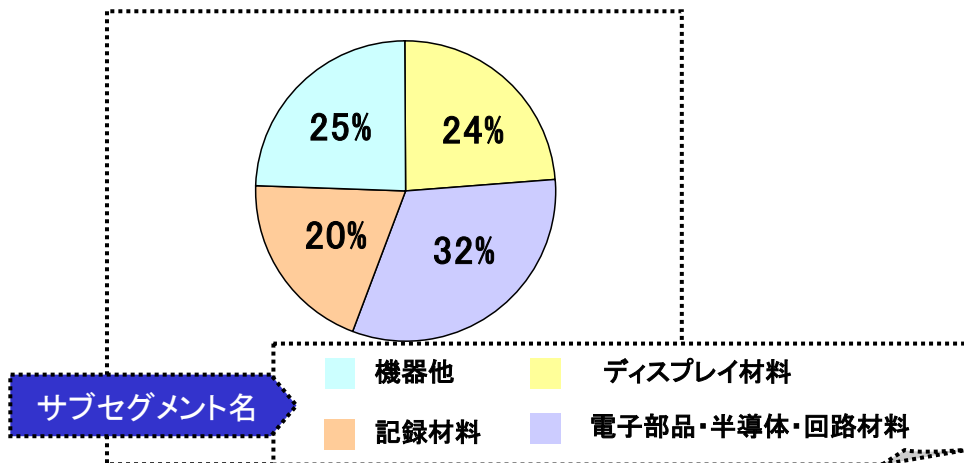
<主要関係会社>

国内：東レエンジニアリング、東レフィルム加工 他

海外：TPA(アメリカ)、TPEu(フランス)、TSI(韓国)、STEMCO(韓国)他

情報通信材料・機器セグメントの売上高の詳細

【07年3月期第1四半期サブセグメント別売上高比率】



* 上記比率は小数点以下1位を四捨五入して表記しております。

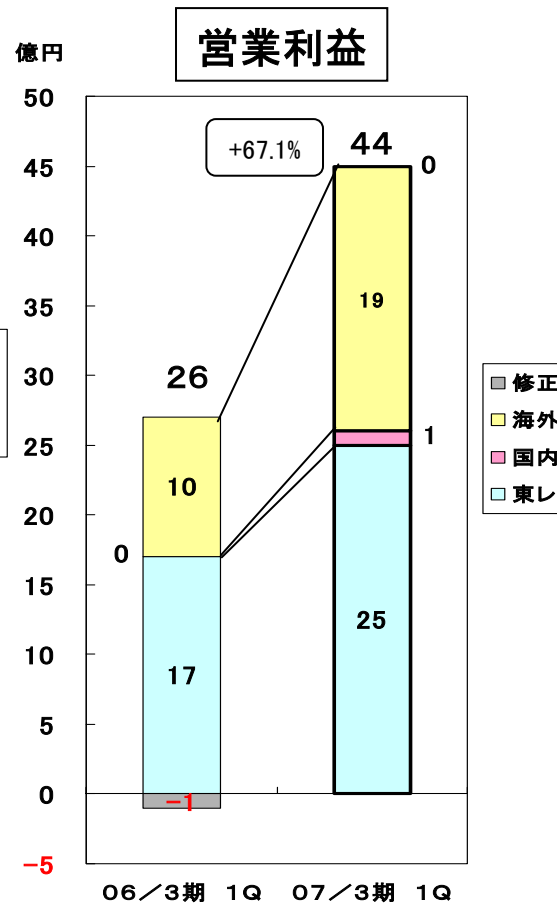
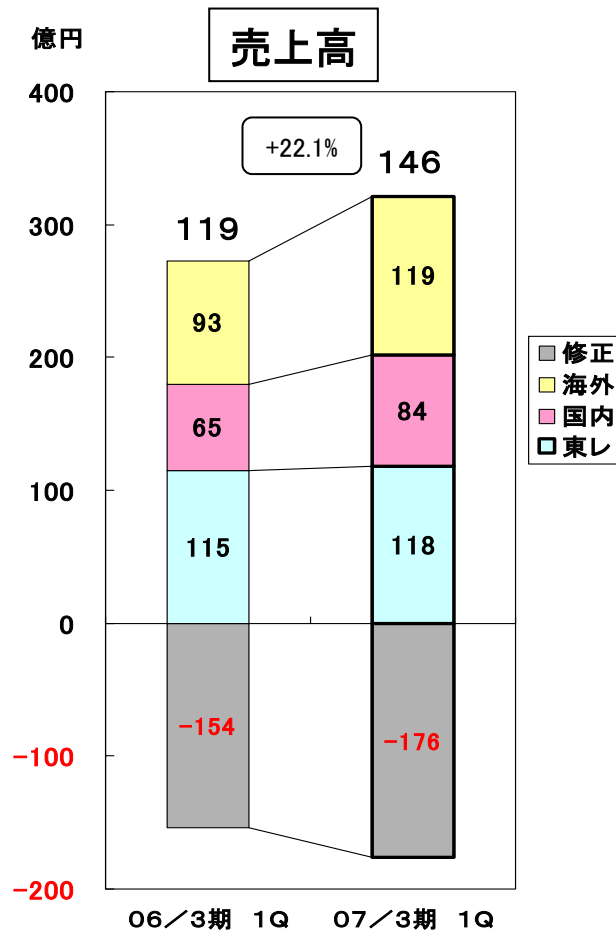
【サブセグメント別売上高推移】

単位: 億円

サブセグメント	第1四半期計		
	06年3月期 第1四半期	07年3月期 第1四半期	増減率
ディスプレイ材料	111	154	+38%
電子部品・半導体・ 回路材料	149	205	+37%
記録材料	130	129	-1%
機器他	126	159	+26%
情報通信材料・ 機器セグメント合計	517	646	+25%

サブセグメント名	内訳
ディスプレイ材料	光学用フィルム、光学用フィルム加工品、PDPペースト、カラーフィルター、カラーフィルター用ペースト、ケミカル材料、有機EL材料他
電子部品・半導体・回路材料	電子部品・回路用フィルム、FPC用銅張ポリイミドフィルム、TAB用接着テープ、半導体・電子部品用接着シート、半導体コーティング材料、CMPパッド、2層銅張ポリイミドフィルム、TABテープ・COF加工品、樹脂材料、樹脂加工品他
記録材料	磁気材料、TTR (Thermal Transfer Ribbon) ・受容紙用フィルム、印刷システム材料他
機器他	液晶スリットコーター、ダイボンディング装置、検査装置、PDP用装置・部品、商社、システム、サービス他

事業セグメント別業績(炭素繊維複合材料)



特記事項

東レ

航空機用途、産業用途とも順調に拡大する需要に対応し、炭素繊維、中間基材、成型品それぞれ拡販に努め、増収増益。

国内子会社

商事子会社が順調に拡販を進め、増収増益。

海外子会社

航空機用途、産業用途とも順調に需要が拡大し、1月に増設設備が稼働した米国子会社の増産効果もあり、増収増益。

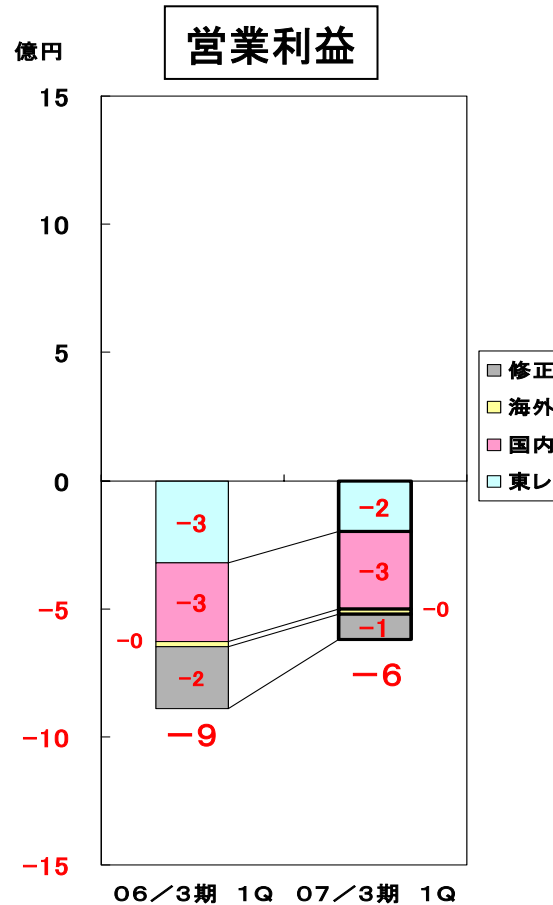
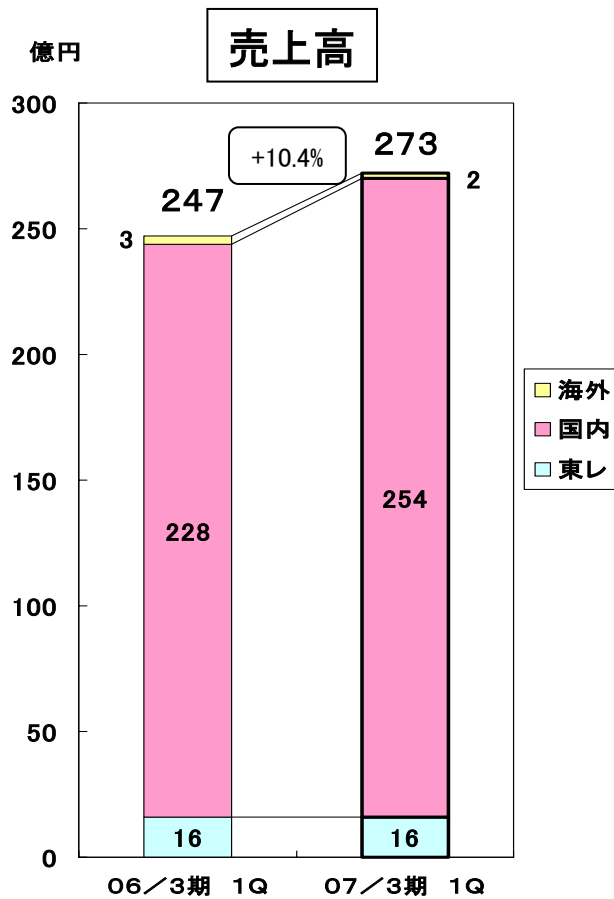
本セグメントでは、日米欧3拠点のグローバルオペレーションの規模が大きく、実態を正しく表すために、内部売上高の消去を外枠で記載しています。

< 主要子会社 >

国内：東レインターナショナル

海外：SOFICAR(フランス)、CFA(アメリカ)、TCA(アメリカ)

事業セグメント別業績(環境・エンジニアリング)



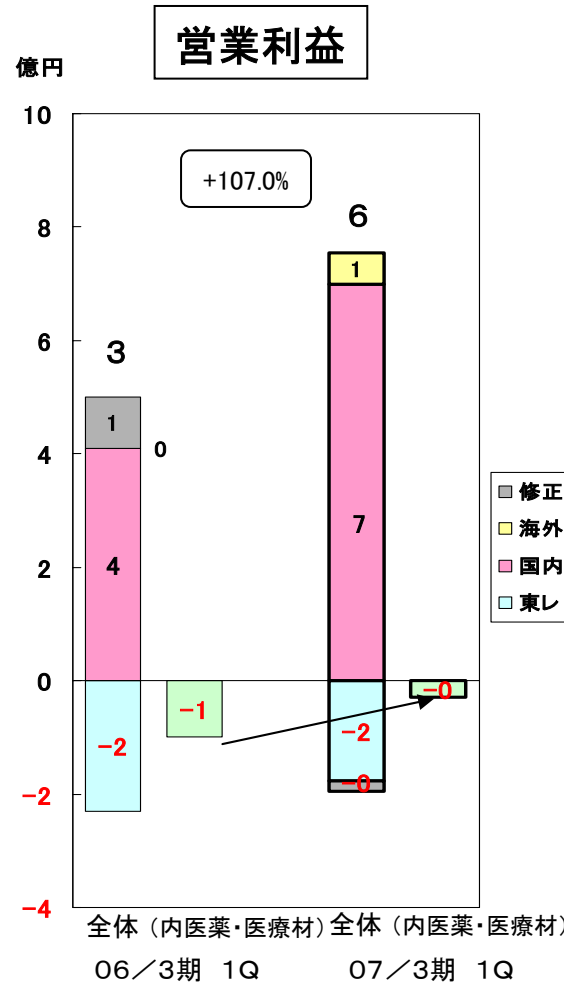
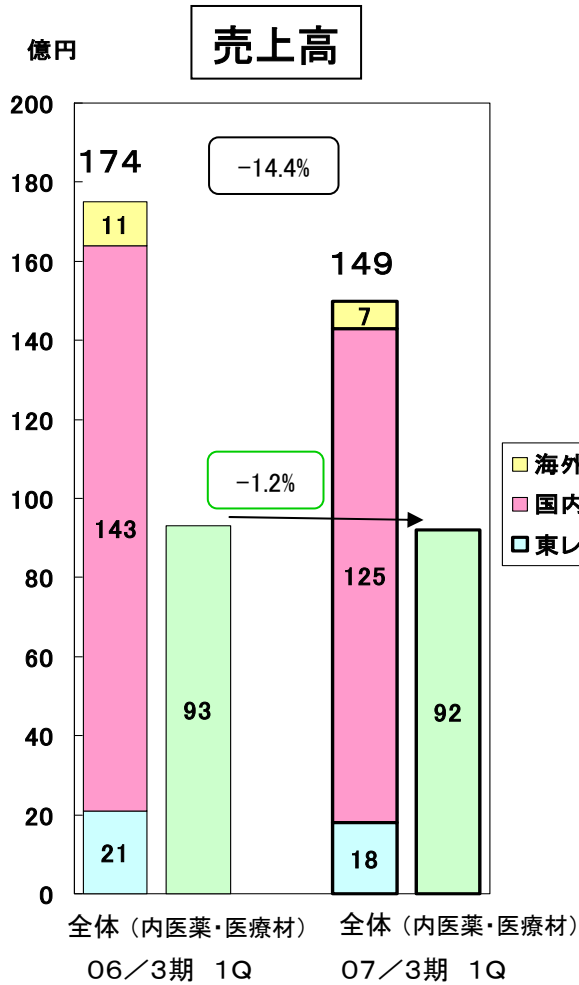
特記事項

国内子会社
水道機工、商事子会社が拡販を進め、増収。

<主要子会社>

国内：東レ建設、東レエンジニアリング、東レACE、水道機工 他

事業セグメント別業績(ライフサイエンスその他)



特記事項

東レ

医薬事業は、薬価改定の影響等により、減収。

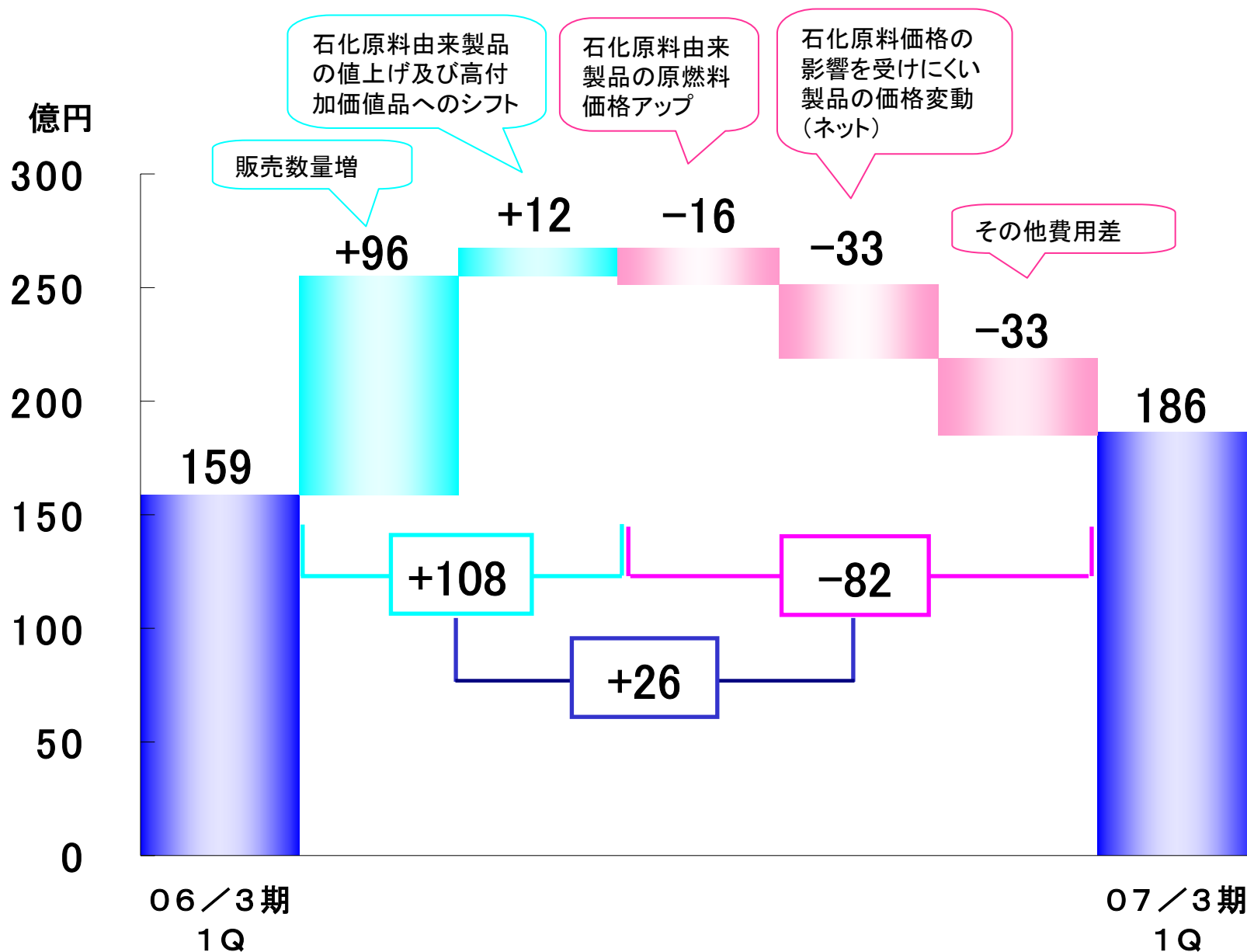
国内子会社

商事子会社のスポット取引の減少等により、減収。
人工腎臓の拡販等により、増益。

<主要関係会社>

国内：東レ・メディカル、東レリサーチセンター、東レエンタープライズ 他

営業利益増減要因分析



2007年3月期中間期連結業績見通し

単位：億円

	前年同期 実績	今回見通し	増減
売上高	6,788	7,250	+462 (+6.8%)
営業利益	388	430	+42 (+10.7%)
経常利益	368	410	+42 (+11.4%)
中間純利益	168	240	+73 (+43.3%)

期初見通し	増減
7,250	— (—)
430	— (—)
410	— (—)
240	— (—)

備考：為替レート的前提は、110円/US\$

(注)5月10日に発表した中間期業績見通しは修正していません。

通期の業績予想につきましては、中間決算発表時に見直しを行う予定です。

事業セグメント別売上高・営業利益中間期見通し

期初見通し比

単位：億円

	売上高			営業利益			特記事項
	期初見通し	今回見通し	増減	期初見通し	今回見通し	増減	
繊維	2,900	2,900	— (—)	105	90	-15 (-14.3%)	原燃料価格高騰の影響を受け、期初見通し比減益の見通し。
プラスチック・ケミカル	1,750	1,750	— (—)	75	75	— (—)	
情報通信材料・機器	1,350	1,350	— (—)	155	155	— (—)	
炭素繊維複合材料	300	300	— (—)	80	95	+15 (+18.8%)	全用途が好調に推移し、期初見通し比増益の見通し。
環境・エンジニアリング	600	600	— (—)	0	0	— (—)	
ライセンスその他	350	350	— (—)	15	15	— (—)	
(内医薬・医療材)	200	200	— (—)	5	5	— (—)	
計	7,250	7,250	— (—)	430	430	— (—)	
消去又は全社				0	0		
連結	7,250	7,250	— (—)	430	430	— (—)	

事業セグメント別売上高・営業利益中間期見通し

前年同期比

単位：億円

	売上高			営業利益			特記事項
	前年同期実績	今回見通し	増減	前年同期実績	今回見通し	増減	
繊維	2,887	2,900	+13 (+0.4%)	104	90	-14 (-13.0%)	原燃料価格の高騰の影響を受け、売上高横這い減益の見通し。
プラスチック・ケミカル	1,588	1,750	+162 (+10.2%)	86	75	-11 (-13.0%)	自動車用途の樹脂、工業材料フィルム等の需要は堅調も、原燃料価格高騰の影響を受け、増収減益の見通し。
情報通信材料・機器	1,111	1,350	+239 (+21.5%)	131	155	+24 (+18.3%)	IT関連フィルム・樹脂、PDP関連材料等の拡大を見込み、増収増益の見通し。
炭素繊維複合材料	244	300	+56 (+22.9%)	59	95	+36 (+61.0%)	全用途が堅調に推移するとともに米国子会社の増産効果等もあり、増収増益の見通し。
環境・エンジニアリング	619	600	-19 (-3.1%)	▲ 12	0	+12 (-)	体質強化を進め、全体で減収利益改善の見通し。
ライフサイエンスその他	337	350	+13 (+3.7%)	20	15	-5 (-25.6%)	医薬・医療材事業は、医薬事業が薬価改定の影響等により、減収減益の見通し。
(内医薬・医療材)	203	200	-3 (-1.6%)	6	5	-1 (-22.8%)	
計	6,788	7,250	+462 (+6.8%)	388	430	+42 (+10.8%)	
消去又は全社				0	0	-0	
連結	6,788	7,250	+462 (+6.8%)	388	430	+42 (+10.7%)	

事業環境変動要因に対する当社対応

第2四半期以降の主たる事業環境変動要因について、下記対応を着実に実行する。

<セグメント>

<環境変動要因>

<当社対応>

繊維
プラスチック・ケミカル

7月以降、原燃料
価格が想定以上に
上昇する懸念

- さらなる**価格転嫁**の推進
- **高付加価値品**への転換
- 徹底的な**コストダウン**

情報通信
材料・機器

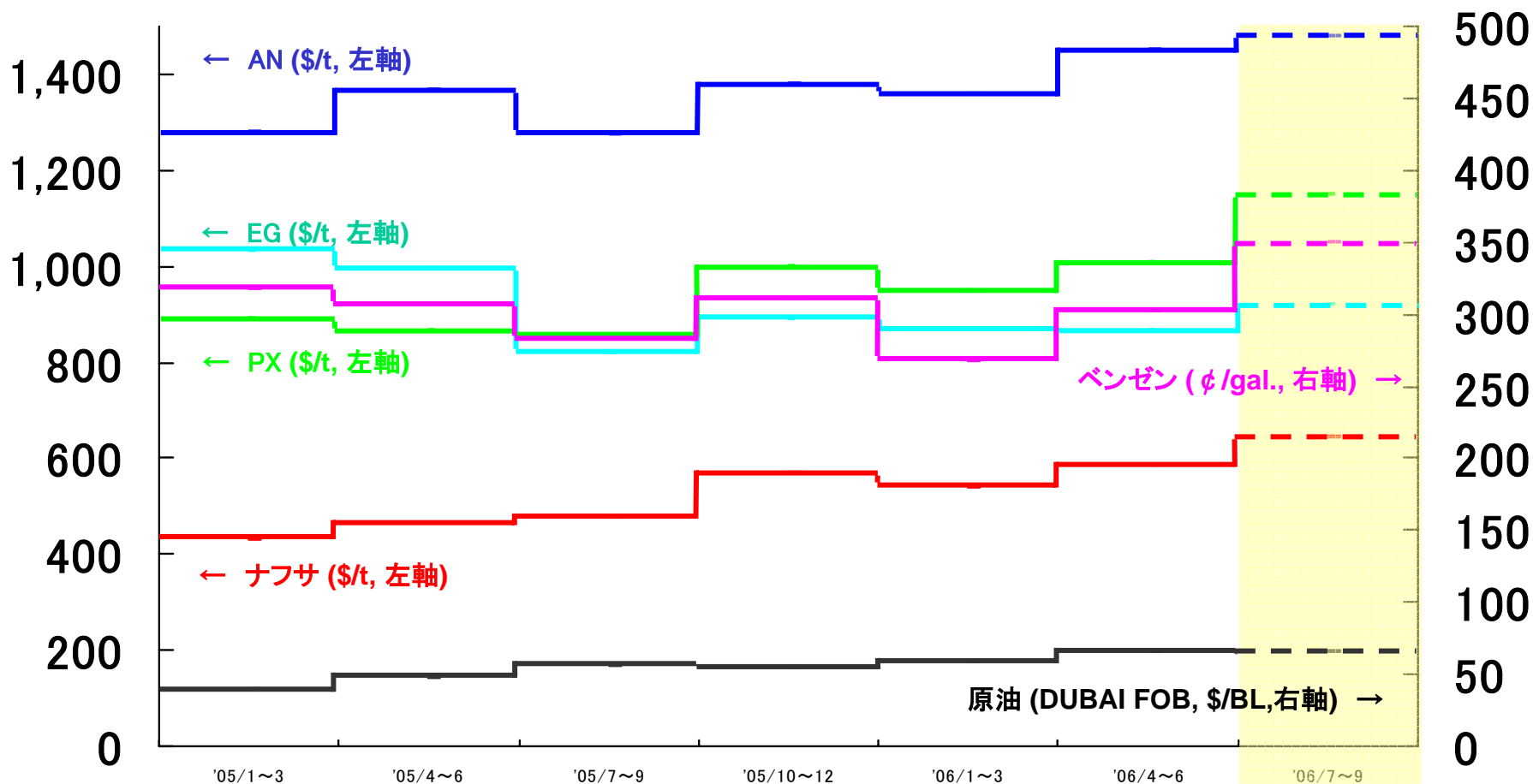
デジタル関連製品の
一時的な生産調整
懸念

FPD関連材料の競
争激化によるさらなる
価格低下の懸念

- 強力なパートナーとの更なる
取り組み強化
- **高機能付加価値品**を順次投入し、販売価格を維持
- **加工品比率**の拡大
- 徹底的な**コストダウン**

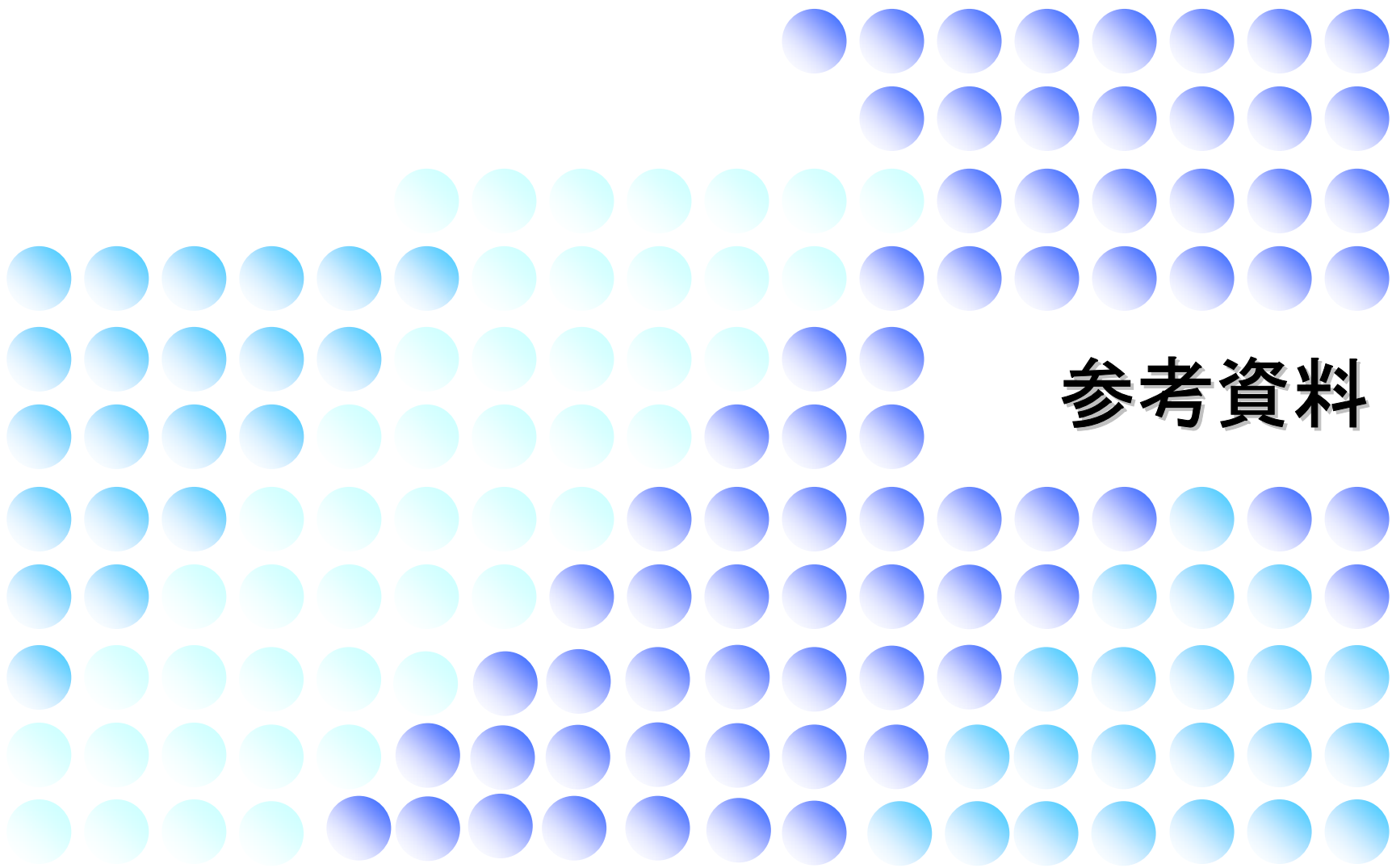
原料価格の見通し

主要原料の価格は、4～6月に上昇し、7月以降も高値の水準で推移する見込み。



最近のトピックス(06/5~06/7)

時期	トピックス	NT-Ⅱの施策			
		先端材料 事業拡大	ナンバーOne 事業拡大	海外事業 拡大	事業構造 改革, NVC
5月	<p>中国・華北における樹脂コンパウンド新拠点の確立</p> <p>中国・華北におけるエンジニアリングプラスチックおよびABS樹脂の高機能コンパウンド品の新たな生産拠点として、日本ピグメント株式会社殿ならびに豊田通商株式会社殿との合併で「天津碧美特工程塑料有限公司」を設立。自動車・自動車部品メーカーや電機・電子部品メーカーの現地進出に対応する。</p>			○	
6月	<p>炭素繊維複合材料の革新的量産技術を開発</p> <p>炭素繊維複合材料(GFRP)を用いて、複雑形状の工業製品を大量に生産できる新規量産技術の開発に世界で初めて成功。GFRPの材料設計から生産方法までを抜本的に見直し、設計自由度と量産性を実現。ノートパソコンの筐体をはじめ、自動車部品等大量生産品向けにGFRPを展開することが可能となる。</p>	○	○		
6月	<p>ユニクロ・東レ「戦略的パートナーシップ」の構築</p> <p>株式会社ユニクロ殿と戦略的パートナーシップ構築について本年3月に締結した基本合意書に基づき、中長期的・包括的な調達及び供給に関する合意書を締結。東レのユニクロ殿に対する素材・製品供給は、2010年までの5年間累積金額で2,000億円を超える計画。加えて、現在の市場には存在しない画期的な素材開発を目指し、ユニクロ殿と共同でプロジェクトチーム(名称:次世代素材開発プロジェクト)を発足。</p>				○
7月	<p>海水淡水化用に、高い「ホウ素」除去率を有する高性能逆浸透膜を開発</p> <p>海水淡水化用逆浸透膜(RO膜)のサブナメートル(ナノメートル(10億分の1メートル)の1/10)の空隙直径(孔径)分布を定量化し、人体に有害な物質と言われるホウ素の除去率と孔径分布の相関を世界で初めて実証。この情報に基づき、当社独自の分子設計技術を駆使し、サブナメートルの精度で孔径を制御した「高ホウ素除去RO膜」の開発に成功。</p>	○			



参考資料

中国・華北における樹脂コンパウンド新拠点の確立

中国・華北におけるエンジニアリングプラスチックおよびABS樹脂の高機能コンパウンド品の新たな生産拠点として、日本ピグメント株式会社殿ならびに豊田通商株式会社殿との合弁で「天津碧美特工程塑料有限公司」を設立。自動車・自動車部品メーカーや電機・電子部品メーカーの現地進出に対応する。

天津碧美特工程塑料有限公司

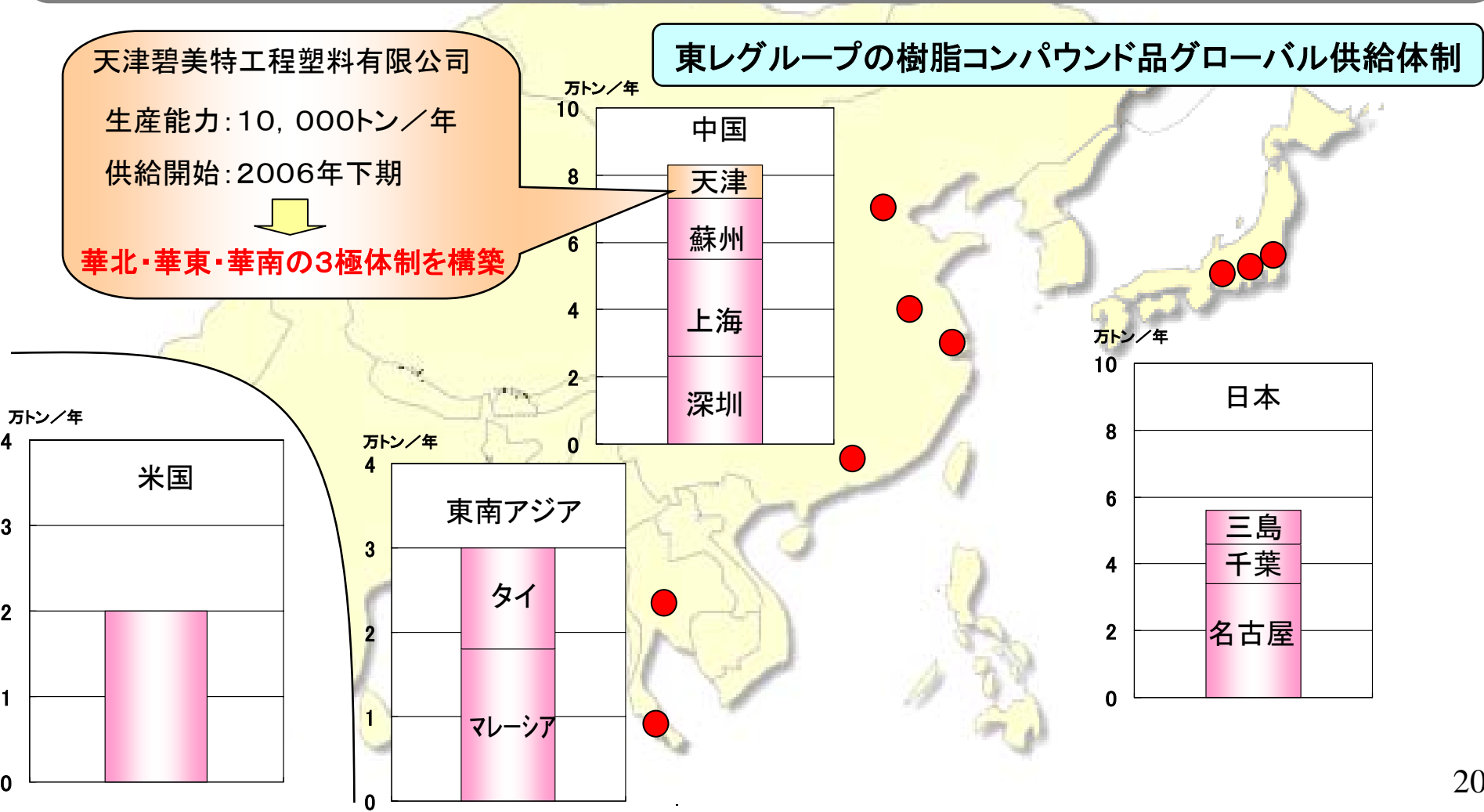
生産能力: 10,000トン/年

供給開始: 2006年下期



華北・華東・華南の3極体制を構築

東レグループの樹脂コンパウンド品グローバル供給体制



炭素繊維複合材料の革新的量産技術を開発

炭素繊維複合材料(CFRP)を用いて、複雑形状の工業製品を大量に生産できる新規量産技術の開発に世界で初めて成功。CFRPの材料設計から生産方法までを抜本的に見直し、設計自由度と量産性を実現。ノートパソコンの筐体をはじめ、自動車部品等大量生産品向けにCFRPを展開することが可能となる。

従来のCFRPは、複雑な形状の成形品を大量に生産することが困難

当社の3つの革新技术により、複雑形状の工業製品の量産化が可能に

1. 材料設計技術の革新

成形品を形状・機能毎の部品単位で分割設計
→強度・剛性が必要な主要部分は長繊維CFRPを適用
複雑形状部分は短繊維CFRPやプラスチックを適用

射出成形材料

フレーム

複雑三次元形状

構造設計

天面

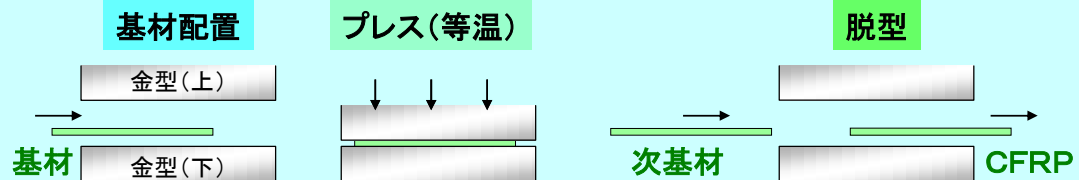
CFRP

単純平板形状

剛性設計

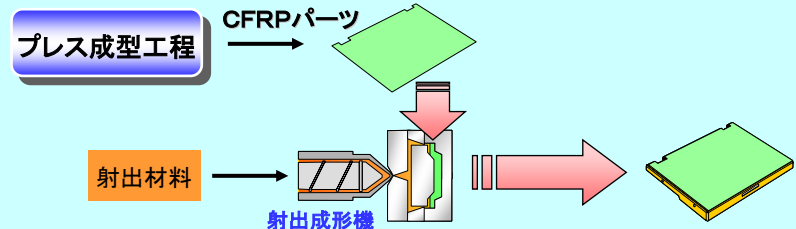
2. 材料加工(成形)技術の革新

従来比10倍以上の速さで固まる新開発の超高速エポキシ樹脂を組み合わせたプレス成形法を技術 → 成形時間を3分以内に大幅短縮



3. 材料加工(組立)技術の革新

CFRPとプラスチックなど異素材を熱溶着で接合する“CFRPハイブリッド技術”を確立
→ノートパソコン筐体を1分以内で組み立てることに成功



ユニクロ・東レ「戦略的パートナーシップ」の構築について

株式会社ユニクロ殿と戦略的パートナーシップ構築について本年3月に締結した基本合意書に基づき、中長期的・包括的な調達及び供給に関する合意書を締結。東レのユニクロ殿に対する素材・製品供給は、2010年までの5年間累積金額で2,000億円を超える計画。加えて、現在の市場には存在しない画期的な素材開発を目指し、ユニクロ殿と共同でプロジェクトチーム(名称:次世代素材開発プロジェクト)を発足。

素材から最終製品までの一貫した商品開発体制

新商品の共同開発・企画

「次世代素材開発プロジェクト」

美・健康

エコロジー

新機軸

SUPER NATURAL

FUNCTION & COMFORT



株式会社ユニクロ
柳井会長兼CEOと
榊原社長

素材・製品供給: 2,000億円以上

(2010年までの5年間)



海水淡水化用に、高い「ホウ素」除去率を有する高性能逆浸透膜を開発

海水淡水化用逆浸透膜（RO膜）のサブナメートル（ナメートル（10億分の1メートル）の1/10）の空孔直径（孔径）分布を定量化し、人体に有害な物質と言われるホウ素の除去率と孔径分布の相関を世界で初めて実証。この情報に基づき、当社独自の分子設計技術を駆使し、サブナメートルの精度で孔径を制御した「高ホウ素除去RO膜」の開発に成功。

ホウ素

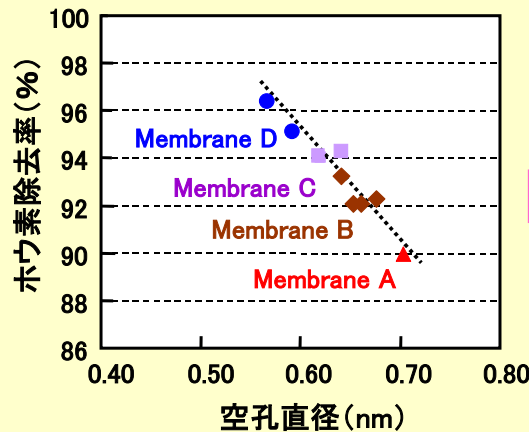
- ・通常の河川水に比べ、**海水に高濃度**で存在
- ・**毒性**があるため、生殖機能障害や柑橘類の立ち枯れ病を起こす

海水淡水化用
RO膜での除去

RO膜はほとんどの物質を高率で除去できるが、**ホウ素分子は非常に小さい**ため、従来のRO膜では**除去が困難**

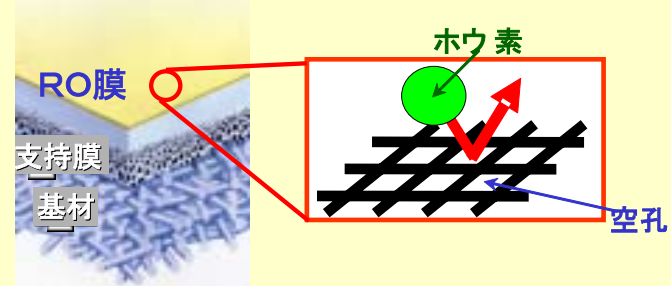
高性能逆浸透膜

東レリサーチセンターとの共同作業により、RO膜に存在する**孔径分布とホウ素除去率**の間の相関関係を世界で初めて明確化



空孔直径とホウ素除去率の関係

適した孔径を持つポリマー分子を設計し、ホウ素除去性能が向上（**ホウ素濃度を従来比20%減**）した新規高性能RO膜を開発



本資料中の2007年3月期中間期の業績、見通し、及び事業計画・将来展望についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。

本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。